

実践教材・教具紹介一覧表

松山盲学校

番号	教材・教具名	紹介メモ
①	<p>「厚みシール」</p> 	<p>シール貼りの学習や、教科学習の練習問題の解答欄に○を付けたたり、印を付けたたりする際に利用している。触感覚の弱い児童の支援のために作成し、徐々に厚みを薄くしたり大きさを小さくしたりして指先での操作の練習をしている。また、通常のシールで認知できる児童にとっても厚みがあることで見つけやすくなり、正答数を数えるなどの意欲付けになった。水彩絵具用のリキテックス社「メディウム つや消し」を使用。 (小学部)</p>
②	<p>「点字すごろく」</p> 	<p>墨字の上に点字を打ったタックシールを貼り、点字使用の児童も読めるようにしている。また、弱視の児童も見やすいように、地を黒色に、文字を白色にしている。いろいろな素材を用いて、高さや触感を変えて作り、進んでいく方向と、止まる場所やその数字が分かるようにしている。枠の意味も触ってすぐ分かるよう、丸枠や四角の枠を作り、四角の枠に止まると1回休みとなるようにしている。「10進む」や「20戻る」などのポイントは、自由に動かすことができるようにしている。 児童は、休み時間や昼休み等で遊ぶときに使うほか、計算カードを引き、その答えの値の分進むというルールで、算数や珠算の勉強でも使っている。楽しんで計算問題に取り組んでいる。(小学部)</p>
③	<p>「ならべよう、かぞえよう」</p> 	<p>転がらないように台に置いたボールに触り、数量の理解を図るために作成した。質感、量感を考慮してテニスボールとゴルフボールを使う2種類のものを作成し、児童の手指の機能に合わせて大きさを決めて使用した。 置き台の形を確かめること、両手を使って端から数えること、続けて並べて置くことなど、様々な課題に一つずつ取り組んでいる。(小学部)</p>
④	<p>「音の方位磁針」</p> 	<p>北を向けると、ブザーが鳴る。 校外歩行や外出したときに、音で北を認識することができ、自分が進みたい方角を確認することができる。最近ではスマートフォンやタブレット端末のアプリで方角を確認できるようになったが、そのような機器を操作することが難しい生徒でも、簡単に利用することができる。(中学部)</p>

⑤	<p>「感光器」</p> 	<p>光の強弱に応じて、音の音色が変わる。</p> <p>理科の実験において、全盲や、弱視、色の判別が困難な生徒が、液体の色の変化を確認したり、物体の動きを音で認識したりして、実験結果を学習に反映することができる。</p> <p>(中学部)</p>
⑦	<p>「音声照度計」</p> 	<p>明るさ（ルクス）を音声で読み上げる。</p> <p>これを利用することで、全盲の生徒が「明るい」「暗い」を確認することができる。教室の電気がついているかどうか、外の天気が晴れか曇りかなどが分かる。(中学部)</p>
⑧	<p>「音声距離計」</p> 	<p>この機械を対象物に向けると、その対象物までの距離を音声で読み上げる。全盲の生徒の空間認識が容易になる。</p> <p>(中学部)</p>
⑨	<p>「音声電圧計」「音声電流計」</p> 	<p>回路とつなぐと、その電流量や電圧を音声で読み上げる。</p> <p>理科の学習で使用しており、通常の電流・電圧計では、目盛や針を読み取れない弱視や全盲の生徒が、自分で確認できるようになった。(中学部)</p>
⑩	<p>「寝殿造り模型」</p> 	<p>社会の歴史（平安時代）の学習で使用した。寝殿造りの建物の配置、透渡殿や透廊、釣殿について、触察で理解するために作成した。触察しやすいよう、主要な建物だけを選んで作成した。釣殿で納涼や月見をしたり、庭園に広がる池で舟遊びをしたりする平安貴族の優雅な生活を想像した。(中学部)</p>
⑪	<p>「点図」</p> 	<p>点字の迷路をたどり、手から入ってくる情報を適切に処理する練習に活用した。迷路が難しい生徒には、線たどりに始めている。盲学校の生徒にとって、視覚以外の感覚、特に触覚を活用して情報を得ることは非常に重要で、こうして遊び感覚で手を動かしているうちに、触覚を活用する能力が高まることが期待できる。(点字支援委員会)</p>
⑫	<p>「骨格筋の微細構造」</p> 	<p>骨格筋の微細構造の指導で使用した。これまでは、図を拡大したり、点図を用いたりしていたが、図が複雑で、収縮のスライドの動きの様子が理解しにくく使いづらかった。そこで、本教材を作成した。次の点に留意している。</p> <p>①弱視でも分かりやすいように、コントラストの明確なアクチンフィラメント（白色）、ミオシンフィラメント（赤色）に色分けした。②触察で理解できるように、構造をシンプルにした。③フィラメントのスライドの様子が理解できるように、可動式にした。④手で何度も触れて確認できるように、丈夫な素材を用い、壊れない構造にした（高等部・理療科）</p>

